

(別紙4(2))

事業所名 グループホームまきびの丘

目標達成計画

作成日: 平成 31年 3月 25日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容 目標達成に要する期間	
1	2	住宅地と離れて立地しているため、ボランティアに来て下さる地域住民とは交流ができるが、地域とのつながりは限定的である。	近隣に仮設住宅ができたことを、新たな地域とのつながりを模索できる機会ととらえ、被災された方が地域のご自宅に帰った後も、つながりを維持できるような関係性を構築する。	・大がかりなイベントがあれば、仮設住宅の集会所の掲示板に案内を掲示させてもらい、来荘を促す。 ・市社協などの協力を仰ぎながら、ホームの敷地内の畑を開放し、農作業を通じた交流の場を提供する。	6ヶ月
2	49	ユニットごとの外出は定期的に行っているが、個別に日常的な外出支援ができているとは言い難い。	日常の会話から入居者様の個別の要望や願い、訴えを汲み取る。入居者様の喜びそうな外出や訴えがあるときには、その時できる支援を考え、できる限り個別に支援していく。	・毎月「外食の日」を決めて、定期的に外食にお連れする。 ・今までは職員が決めていた誕生日プレゼントを、可能な入居者様の方には、ご本人が選べるように買い物にお連れする。 ・興味がありそうな外部のイベントに関しては、有償でもご家族と相談の上、外出を促していく。	3ヶ月
3	35	災害対策は、マニュアルの未整備や地域との協力体制も不十分で、積年の課題となりつつある。	近隣の事業所とも相談しながら、早期に広域的な連携のあり方やマニュアル整備を推進していく。	・災害防災マニュアル及びBCP(事業継続計画)を一体的に作成し、折を見て、職員間や他事業所と意見交換し、見直しを図ることで精度を上げていく。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。